

井口

暮らしやすい世の中を次の世代に



井口地区女性会は昭和21年、戦後すぐの時期に創設しました。歴代の会長が大切に保管してきた草創期の資料を見ると、地域の中から始まった戦後の女性たちの力強い動きを読み取ることができ、先輩たちへの畏敬の念を覚えます。

現在私たちは、市女連の三本柱である「環境問題」「男女共同参画」「青少年育成問題・子育て支援」の活動を進めていますが、まさに私たちの先達が永年根気強く続けてきたその後を歩いているだけだという気がしてきます。

今日まで、目指してきたことは、暮らしやすい世の中を、次の世代に変わらず伝えていくこと。そのために、地域の中で時代を超えて続けてきた活動がありました。

地域での活動は、井口地区社会福祉協議会のメンバーとして、年間行事の企画の段階から参画しています。

年の初め「とんどまつり」の際のふれあいバザーでは、物品集めから販売までを任せられ、その収益は、当日参加する区内の共同作業所へ全額寄付します。

37年続く町民体育祭では、300人を超える実行委員・ボランティアのためのお弁当作り。盆踊り大会では、もち撒きのもちの準備と踊りの指導。さらに町の最大の行事である敬老会では、出席者のご案内から、当日の会場への誘導。お弁当などの接待とお楽しみ演芸会の段取りなどを担当しています。

独自の活動では、「売りましょう、買いましょう」の合言葉

で始まる不用品交換会があります。家で眠っている品物をもう一度生かす場をと、30年以上続いています。近年は「女性会のフリーマーケット」と、時代に合わせた名前で、地域の若い世代にアピールしています。

10年前に発足した、音楽サークル「ハンドベルすずらん」は、ひとり暮らしの方の集いで演奏したり、地元の保育園園児との音楽交流に参加するなど、活動の場を広げています。

集会所で開かれる年度始めの総会では、プロの演奏家による生の音楽を楽しもうと企画。バイオリン、フルート、マリimba、二胡など、今年で8年続いています。来年は何を聴くことができるのかを楽しみにする会員も増え、活動の支えとなりつつあります。

最後に、初期の会員構成をみると、30代から40代が大半を占めていました。会員が次第に減り高齢化が進む現在、会の活力をどのように維持し、次世代につなげていくかが、今後の大きな課題です。